

第5回

地域の未来を守るために

～宮窪大作の現場レポート～

宮窪大作 全国商工会連合会 地域経済再生本部長

堀口綾子 静岡県商工会女性部連合会 副会長(静岡県裾野市)

インタビュー会場となった静岡県男女共同参画センターあざれあにて、「エコキャップ」と「すそのブランド」のパンフレットをもって

エコ活動から “未来の担い手”育成へ 裾野広がる女性部活動

全国連の宮窪地域経済再生本部長が、地域の課題や復活への展望を深掘りする企画。第5回は、静岡県裾野市商工会女性部の取り組みについて話を聞いた。

先代から受け継いだ 女性部のエコ活動

堀口 私は40歳で女性部に加入しました。飲食店の2代目で、母から家業を引き継ぐ際、女性部に入ったらといわれまして。入部と同時に部長になったんです。

宮窪 入部と同時に部長とはすごいですね。

堀口 他団体での活動歴があったこともありですが、同年代の2人の副部長やメンバーの支えで、無事に10年目を迎えられました。

宮窪 女性部では「エコキャップ回収活動」に取り組まれていたんですよね。

堀口 はい。前の部長さんが始めた活動で、市内の学校や企業さんからペットボトルのふたをお預かりし、社会福祉に役立てています。今年で活動開始から15年を迎え、先日の産業祭では節目のイベントとして協力団体の方々へ感謝状を



地元飲食店より提供を受けた竹の割り箸(約7万本)で作られた橋「日本箸」。完成から10年が経った今でも安全に渡ることができる

お渡ししました。その際、「社員にエコ習慣が身についた」などの感謝のコメントをいただき、活動の意義を実感しました。

宮窪 それはすばらしいですね。ペットボトルのふたは、量に応じて車椅子などと交換されると聞いています。どのくらいの量を回収されたのですか。

堀口 コロナ禍で下火になった時期もありましたが、年間で約3t

だったと思います。エコキャップ回収活動はイメージアップにつながる、多くの企業さんにも協力いただいています。

宮窪 3t！ それはすごい！

堀口 また、今年から新たなエコ活動として、牛乳パック回収を始めました。近隣地域の製紙業者さんにご協力いただき、牛乳パック6枚をトイレトーパー1個と交換しています。イベントで呼びかけたところ、トイレトーパー1300個分の牛乳パックが集まりました。目の前で交換する様子を見ると、よりエコを実感できますね。

宮窪 実感できることは、活動を継続するうえで大切ですよ。私は、地元・富山県砺波市庄川町の公園に「割り箸でつくった橋」「日本箸」を建設した経験があります。
堀口 「日本箸」ですか、発想がすごいですね！ この橋は、本当に渡れるのですか？

宮窪 もちろん渡れます。地元の検査センターに強度確認の依頼したら断られてしまって(笑)。実際には橋の渡り初めで、最初に体重150kgの仲間、次に市長、最後に神主さんに渡ってもらおうと

いうセレモニーを行い、強度を証明しました。機会があれば、ぜひ足を運んでみてください。

人手不足解消における職業体験の重要性

宮窪 さらに部員や地域のためになる活動として、エコマルシェをされたそうですね。

堀口 はい。エコキャップ回収活動を進めるなかで、メンバーから「もう少し踏み込んだ取り組みをしたい」という声上がり、そこで始めたのが、子どもをターゲットとしたイベント「エコマルシェ」です。現在は商工会が行う産業祭への参画に形を変え、子ども向けの「お仕事体験」ブースの運営につながっています。エステサロンを営む部員の指導で、子どもにもお父さんをマッサージしてもらおうなどの体験は、部員にとっても事業の意義を見直すよいきっかけとなりました。

宮窪 職業体験は、巡りめぐって未来の担い手を生み出すかもしれませんね。私の従事する建設業も人手不足は喫緊の課題で、若者・子どもに就職先の選択肢として建設業を入れてもらえるよう、富山



「エコマルシェ」ではフリーマーケットやリメイク雑貨の販売、ワークショップなどが催され、大勢の人で賑わった



新聞紙を細かく割いてつくられた「しんぶんブール」は子どもたちに大人気

本業のステツプアップに

つながる女性部活動に



「エコマルシェ」の集合写真

駅での職業体験イベントや高校への出前授業を実施しています。

堀口 若者や子どもにも興味をもってもらうための取り組みは重要ですね。

宮窪 はい。駅での職業体験は、駅に網の目の通路をつくって、型枠の組み立てや左官工事などを体験してもらいました。高校生を対象に考えていましたが、3歳くらいの子が金槌をもって目をキラキラさせているのを目の当たりにし、小さな子どもたちに仕事を見てもらうことの大切さも実感しました。出前授業は普通科や土木科の高校を対象に10年近く継続しており、その学校の生徒さんが就職先として土木・建築関係の仕事を選ぶ割合も半分から8割程度に増えたと聞いています。継続は力なりだと感じます。

堀口 継続は力なり、私もそう思っています。何も知らなければ目指し

「裾野市商工会女性部の部員は、自ら起業するバイタリティのある方が多いです」と堀口さん



ようがないですが、幼少期の体験を何かの拍子に思い出して、「ものづくり」を人生の選択肢に入れてもらえるといいですね。

宮窪 そうですね。今は普通科の学校が大半で、工業や建設などのもので、ものづくり系の学校は3割もないので、ものづくりをまったく知らない若者が多く、我々の業界を検討してもらうことも非常に難しいと考えます。彼らが才能に気づくためにも、職業体験は重要だと考えています。私は、ニートや引きこもりの若者向けの就労体験もしており、彼らが達成感を感じている様子を見るとうれしい気持ちになります。

新たな女性部のあり方

宮窪 エコマルシェや産業祭は、女性部員のビジネスに役立っていますか。

堀口 はい、女性部のイベントはテストマーケティングにつながっていると思います。部員にはスキルビジネスを営む方が多いので、女性部活動を通じて低リスクでチャレンジし、本業のステツプアップにつながるように、という点を意識しています。

宮窪 裾野市商工会女性部さんのメンバー構成や雰囲気はどうですか。

堀口 メンバー構成は世代交代の



静岡県東部、富士山の裾野にある「裾野市」(写真提供：裾野市観光協会)



「すそのブランド」
裾野市の活性化のため、特産品を盛り込み、裾野市、裾野市商工会および裾野市商工会の「すその」の特産品・製品・サービスの認知度を高め、活力ある地域社会の実現を目指します。



裾野市商工会が地域の特産品・製品・サービスの認知度アップなどを目指して作成した「すそのブランド」のブランド品の紹介パンフレット



過渡期にあると感じます。また、自身が事業を営む方が増えたなど、雰囲気は、「まずやってみよう」「制約があっても、今できる範囲で実績をつくっていかう」という前向きさが特徴だと思います。

宮窪 女性部活動への参加状況はいかがですか。運営で工夫されていることがあれば教えてください。

堀口 定例会に参加できない人が出てしまう点は課題だと考えていて、参加しやすい運営方法を試行錯誤中です。今は、月1回のエコキャップ回収日を「井戸端会議」として、10時から13時の間、部員が自由に商工会の女性部室を出入りできるようにしています。このことで、参加率アップと、部員間

の交流促進を実現できました。

宮窪 活動の負担低減も、参加率アップには必要な発想ですね。堀口さんは、女性部事業がご自身のビジネスのメリットになったと感じたことはありませんか。

堀口 各方面からさまざまな誘いやお願いをいただき、それに応えるうちに「あやちゃん(堀口さん)のところだったらいいな」といつていただけられるようになったことですね。女性部活動を続けてきてよかったなど。

宮窪 「頼まれごととは試されごと」ですね。女性部活動が本業にもよい影響を与えていると伺えてうれしいです。エコマルシェや産業祭のように、イベントを自分たちの

仕事や商品・サービスの「お試し体験」につなげる工夫は、とてもすばらしいと思います。これからの時代、部員の皆さんの新たなチャレンジを後押しする活動の裾野が広がっていくことでしょう。

宮窪 大作 みやくぼ・だいさく

全国商工会連合会
地域経済再生本部長

富山県砺波市庄川町出身。宮窪建設株式会社代表。東日本大震災後に全国商工会青年部連合会会長(第19代)を務め、青年部員1人100円を募る「100円玉募金」を創設。全国商工会壮青年部連合会会長(第2代)を務めるほか、地域の業界団体や自治振興会長などさまざまな役職を兼任。2024年3月に全国商工会連合会の地域経済再生本部長に就任